

令和6年度「石油製品部会(個別部会)」の議事概要

1. 石油製品部会について

日時：令和6年8月26日（月） 13：00～14：30 形式：対面

2. 議事概要

- 国土交通省海事局（以下、海事局）より、「航空燃料供給不足に対する行動計画」について説明。石油連盟からは、今後の需要動向等を見据えつつ行動計画を踏まえた対策を進めていく、また、航空燃料不足対策はサプライチェーン全体で関係業界・政府が連携して推進することが必要である旨発言があった。また、石油連盟及び日本内航海運組合総連合会（以下、内航総連）より、各空港毎に燃料がどれくらい足りていないか、供給不足となる要因を把握した上、各空港毎の状況も踏まえながら関係者間で連携して対応策を講じていく必要があるのではとの意見があった。【資料1】
- 海事局より、前回の部会にて議論された「石油製品輸送における課題整理」及び「内航海運業の取引環境改善・生産性向上（商慣習への対応について）」について説明。併せて、「みんなで創る内航」推進運動への参加を内航タンカー業界に呼びかけたところ、内航総連より、女性船員の確保等の取組は進めており、今後様々な取組をやっていかなければならないと考えている旨発言があった。【資料2, 3, 4】
- 内航総連より、内航タンカー業界における課題やそれに対する現状の取組及び今後の取組について説明。また、国に対しては石油製品の安定・効率輸送に向けた、船員の確保や船員の労働時間削減等のための設備導入、船舶建造への支援を、荷主業界に対しては荷役時の船員の省力化の検討や気候変動・温暖化に合わせた荷役の在り方に関する配慮等を呼びかけた。【資料5】
- 石油連盟より、船舶燃料のA重油への専焼化による清掃負担軽減等、内航輸送の効率化に資する改善事例について説明。また、国に対し、船員不足対策の引き続きの推進及び内航輸送の一層の効率化等を呼びかけた。内航総連からは、清掃負担軽減については大変ありがたい旨発言があった。【資料6】
- 内航総連より、荷役時の当直人員の配置基準について、各荷主間で統一するよう検討していただきたい旨要望があった。